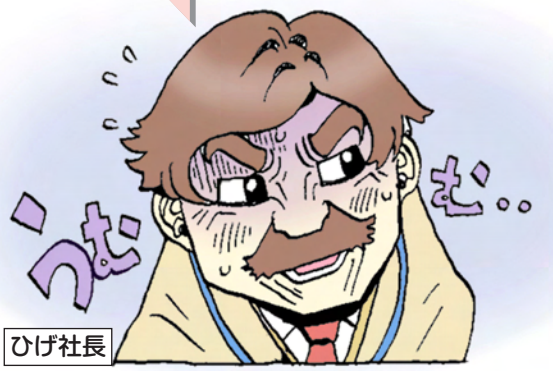
—中小企業経営者のための「ＲＥＡＣＨ規則対応」入門—

社長さん!今、日本の製造業に起きている「REACH激震」を知っていますか?

Q 最近、製品含有化学物質管理って納品先から何度も言われるけど…、ウチの会社の場合どうすればいいか、イマイチ分からなくって…？



ひげ社長

A だいじょうぶです！何をどんな順番で対応すればよいか、わかりやすくご説明します！

新井

イラスト / ©松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

「REACH」って何だろう?

～「REACH規則」とは、EUにおける、新しい化学物質管理の法律です～

【特徴】

① すべての化学物質が対象

② 「No Data, No Market」の原則

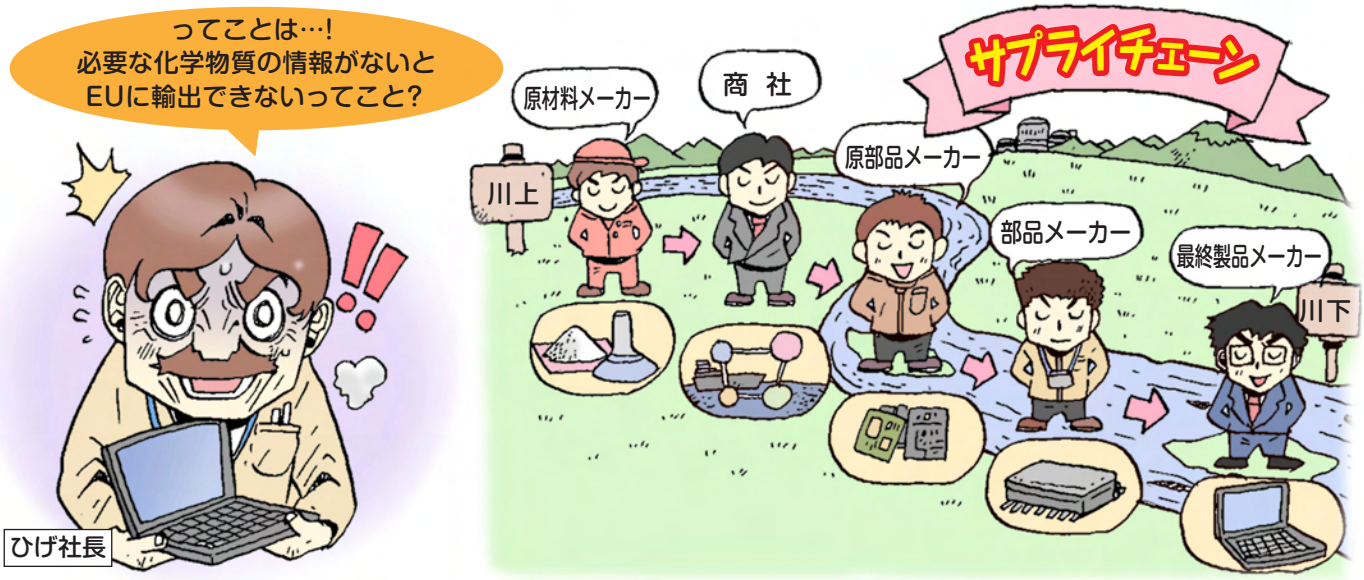
③ リスク評価の責任を政府から企業へ

④ サプライチェーンとユーザーへの化学物質情報の伝達

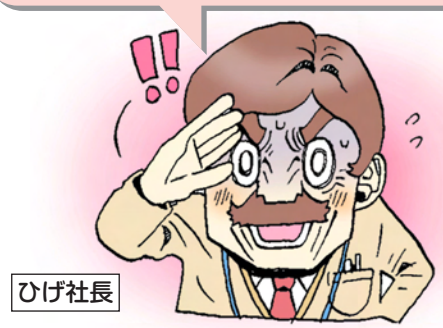
⑤ 成形品にも適用

～日本には、どんな影響があるの？～

EUへの輸出品には、含有化学物質について必要な情報を提供する義務があります。
製品にかかわる、サプライチェーン上のすべての企業の協力が必要になります



Q 中小企業にとっても大問題じゃないか…!?
これまでは化学物質なんて調べもしなかったのに…。そもそも、何でこんな変化が起きたんだ？



A これは地球環境時代に即した変化だとも言えます。
ではまず、「REACH規則」が生まれた歴史的な背景を見てみましょう。

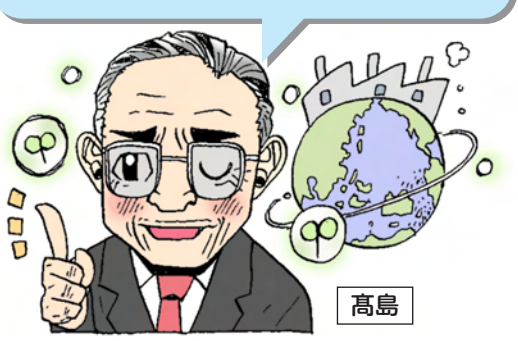


イラスト / ©松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

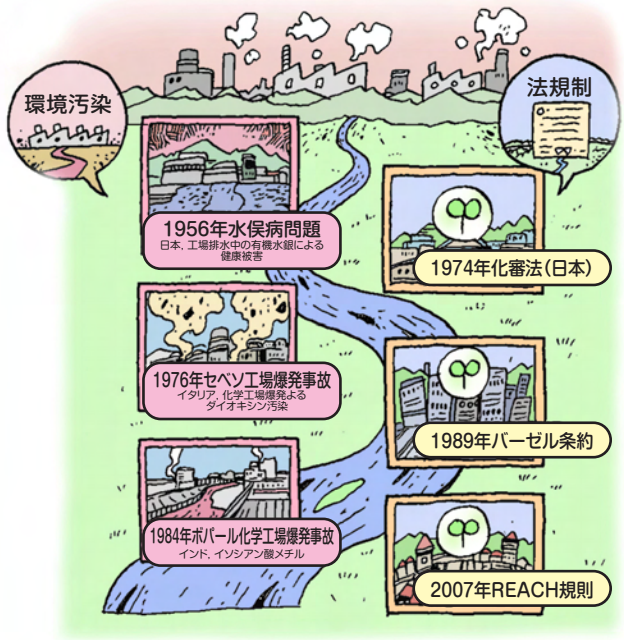
「REACH規則」の生まれた背景

～環境意識の高まりとＥＵ発の法規制～

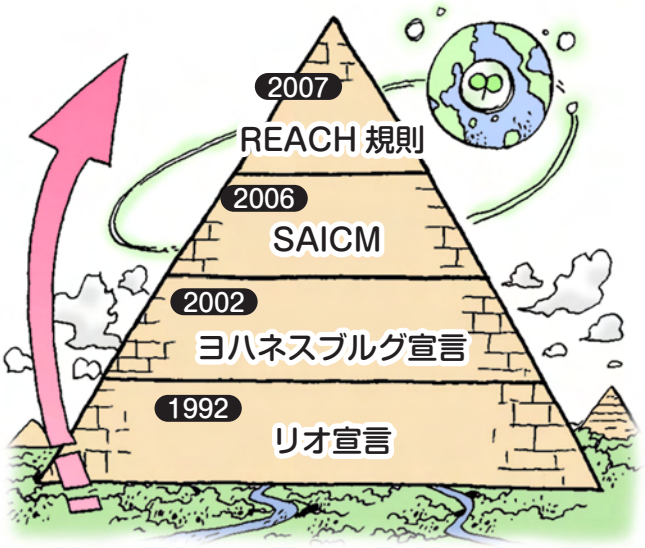
化学物質には有用性と有害性の両側面があります。有用性を利用して経済性を優先するなかで、有害性の管理が不十分になり、公害や事故など、人の健康や生態系に悪影響を及ぼす甚大な問題が世界中で発生しました。

このような状況から、地球の持続的発展のためには化学物質管理の見直しが必要であるという考え方が、世界の共通認識になりました。この認識に沿って制定されたのが、EUのREACH規則です。

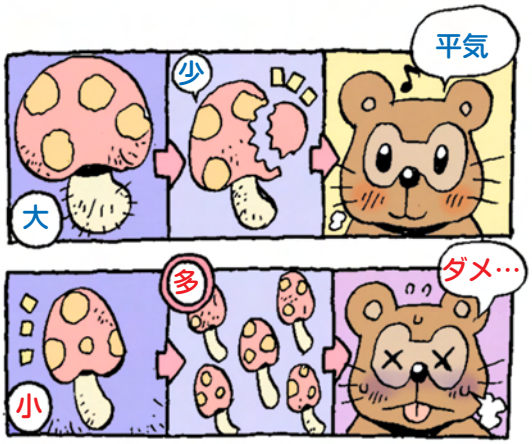
日本で被害をもたらした同様の例としては、イタイイタイ病、水俣病、四日市ぜんそくなどの公害、カネミ油症事件、地下水汚染、ダイオキシン、シックハウス、アスベストなどが挙げられます。



～ハザード管理からリスク管理へ～



ハザード（有害性の程度）×曝露量（とりこまれる量）
＝リスク（事故・健康障害・環境破壊の起こる可能性）



毒性の強いキノコでも少し食べるだけなら問題ない（低リスク）
毒性の弱いキノコでもたくさん食べれば大変なことに（高リスク）

REACH規則は、「リスク」管理視点の法律です

その中から生まれた「REACH規則」

REACH規則はリスク管理

REACH規則はEU域内法ですが、EUに製品を輸出する世界中の産業界に大きな影響を与えています。

また、化学物質管理の良し悪しをめぐる国際的な企業間競争も引き起こしています。NGOによるREACH規則違反の摘発も始まり、摘発された企業ブランドは深刻なダメージを受けました。国際的産業力競争を勝ち抜く上でも、REACH規則への対応が迫られています。

この流れのように、21世紀は、世界全体が地球環境との調和を目指しながら、持続可能な経済・社会体制の構築へと向かっています。2007年にＥＵで生まれた「ＲＥＡＣＨ規則」も、その流れなかでの1ステップだと言えるのです。

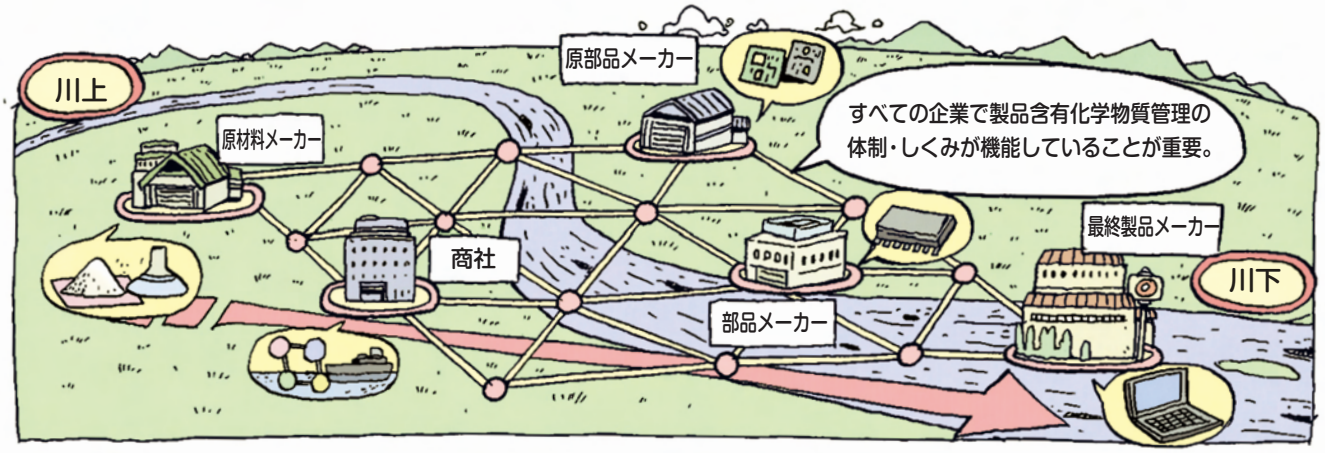
イラスト／©松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

中小企業にはどんな影響があるの?

～日本の大手セット･メーカーの悩みと要望～

こんな状況のなかで、日本のセット･メーカーは製品含有化学物質管理に頭を悩ませています。製造業界として「ＲＥＡＣＨ規則」に対応するために収集した含有化学物質情報が正しいことを保証するには、サプライチェーン全体で化学物質管理が実施されていることが必要だからです。セット･メーカーはこうした要望をホームページ上で強く打ち出しています。



～中小企業に、製品含有化学物質管理が必要になる日がやって来る!?～

関連各社一丸となって日本の力を世界に示そう！

サプライチェーン上のすべての企業が自社製品（原材料、原部品、部品）の含有化学物質情報を順次責任を持って伝達し、最終製品メーカーが情報を統合して初めて、REACH規則に対応できます。

日本人の生真面目さとチームワークの良さを発揮すれば、他国をしのぎ、日本の産業競争力を世界に示すことができるでしょう。日本製品の国際的競争力を維持･向上させるために関連各社一丸となってがんばりましょう！

イラスト / ©松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

対応しない場合の手痛いリスク

① 取引先からの信頼の低下
② 競争力の低下
③ 社会的信頼の低下
④ 受注量の減少

イラスト / ©松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

対応する場合の強力なメリット

～「製品含有化学物質管理システム」とは～

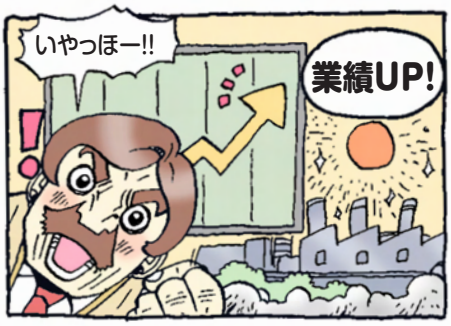
具体的な対応策として、社内に「製品含有化学物質管理システム」を構築することで、効率的に情報管理ができ、いつでも取引先からの要望に応えることができるようになるのです。

BEFORE

そうは言っても、ウチの会社で製品含有化学物質管理システム構築なんてほんとに上手くいくのかな…。

製品含有化学物質管理システムを構築することで、大手メーカーからの信頼度がアップして、新規受注が増えた例もあるんですから…。必ず４つの強力なメリットを実感して頂ける筈です!!

1. 取引先からの信頼性の向上
2. 競争力の向上
3. 製品含有化学物質管理システム構築による企業体質の改善
4. 受注量の増加



AFTER

ほんとにピンチがチャンスに変わってしまったようじゃ！
われわれ中小企業も、これからの地球環境時代に
マッチしたエコ経営にシフトしていく時期なのかも！

…それでは、
製品含有化学物質管理システム構築
に成功した実例をご紹介しますね！

イラスト / ©松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

「製品含有化学物質管理システム」構築企業の成功事例

～業績を伸ばした３つの企業をご紹介します!!～

【事例1】K社（東京都）

●最初はやり方が分からず半信半疑での相談…。自社にマッチした、無理のない製品含有化学物質管理のしくみを、ステップバイステップで構築。

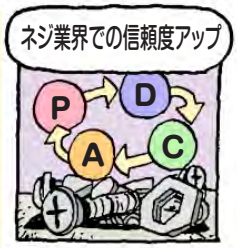
製品含有化学物質管理が難しい「ネジ業界」での信頼度アップで、大手メーカーからの新規受注が! 毎月の売り上げも好調を維持。

〈ネジ販売業〉

従業員17名

何をやって

取引先からRoHS指令対応要請があり、環境マネジメントシステム構築に取り組んで認証を取得。含有化学物質管理は知見がなく対応できずにいたが、コンサルタントの支援で身の丈に合った管理体制とシンプルなしくみをつくり上げた。1年後には構築したシステムもレベルアップ。継続的に改善を行っている。運用中のRoHS対応のしくみは、少しの変更でREACH規則にも対応できる。



どうなった

常に悪者扱いされるネジ。業界でいち早く製品含有化学物質管理に取り組んだため、既存の得意先の満足度を高めただけでなく、一部上場製造メーカーから新規受注を獲得した。この過程で、大手製造メーカーの最大の関心事が「リスクの低減」であることを知った。景気低迷下での業績維持に加えて、教育効果、社内規律の順守、5Sの徹底による資産の有効活用などによる企業体質強化も実現した。

【事例2】Y社（東京都）

●複数の大手取引先から製品含有化学物質管理を強く要求されて、困り果てていたのが2年前…。

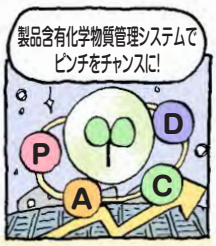
このピンチをチャンスに変えてくれたのが、エコステージのCMS（化学物質管理システム）だった。Y社の「CMS」は、取引先からの「信頼の泉」。営業でも一番の「ウリ」になっている。

〈プラスチック部品製造業〉

従業員330名

何をやって

多数の取引先からの要請により、含有化学物質管理の規格を持つ環境マネジメントシステムの第三者認証を取得。全国7つの工場を含めた本社一括管理型で、確実でタイムリーな含有化学物質情報の流通を実現した。この管理システムにより、取引先各社からの要求に適切に応じられるようになった。今後はREACH規則対応に向けてしくみのメンテナンスを行う予定である。



どうなった

川下企業からの信頼が大いに向上した。不況下にあっても受注量を維持。自社に合うように構築した体制としくみは無理がなく使いやすい。含有化学物質情報の流れがよく、リスク管理は高レベルにある。増員も特別な投資もなく、作業時間も大幅に節約できた。在庫の削減、不良品や産業廃棄物の減少など数々の付帯効果も生んでいる。

【事例3】A社（埼玉県）

●化学物質管理って何？　戸惑いながら、最初は「チンプンカンプン」からスタート。

今やA社は、製品含有化学物質管理の優等生企業。納入先の「お手本」となり、現在納入先企業がA社にならって、製品含有化学物質管理のしくみづくりに取り組み中!

〈電子部品製造業〉

従業員30名

何をやって

RoHS指令対応で苦戦していた折、取引先から環境マネジメントシステムの取得を要請され、複数のEMSを比較検討した。悩みの種は化学物質管理だったので、製品含有化学物質管理の規格を持つ環境マネジメントシステムを選択し、半年余りで認証を取得。規格に沿って体制をつくり、しくみを構築した。このシステムは専門的な知見を持つ人材が不要であるため、大きな負担増は強いられなかった。

どうなった

取引先からの含有化学物質情報の要求に迅速に応えられるようになった。対応の良さが評判となり、同じシステムを導入する納入先企業も現れたほど。含有化学物質に関する法律は改定や新規制定が頻繁であるが、環境マネジメントシステムの定期評価の時に評価員が最新情報を知らせてくれるので、対応に遅れる心配がない。また、評価員がいつでも相談にのってくれるので問題を先送りしなくて済む。

Q 最近、製品含有化学物質管理って納品先から何度も言われるけど…、ウチの会社の場合どうすればいいか、イマイチ分からなくって…？

ひげ社長

そうですね!!
その方法は…

イラスト／©松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

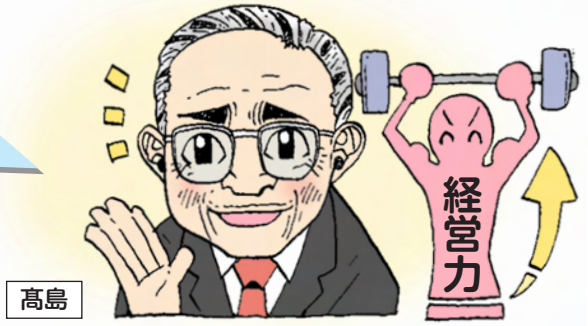
どうすれば「製品含有化学物質管理システム」構築ができるの？

～オーダーメイドの仕組みづくりで付加価値を！～

Q でも、実際どう進めればいいんだろう…？
ウチの会社は、資金も少ないし時間もない。
化学物質管理の専門家だっていないんだ…。
こんな状態で製品含有化学物質管理システムの構築なんてできるの？

A **まずは御社のケースや悩みを詳しくお聞かせ下さい!!**
製品含有化学物質管理システムは、会社の規模や管理体制に合わせて、オーダーメイドで構築していくことが大切なんです！

A 何より、製品含有化学物質管理システム構築によってマネジメントの仕組みを見直し、改善することで…。
会社の体質強化を図ることができますよ。

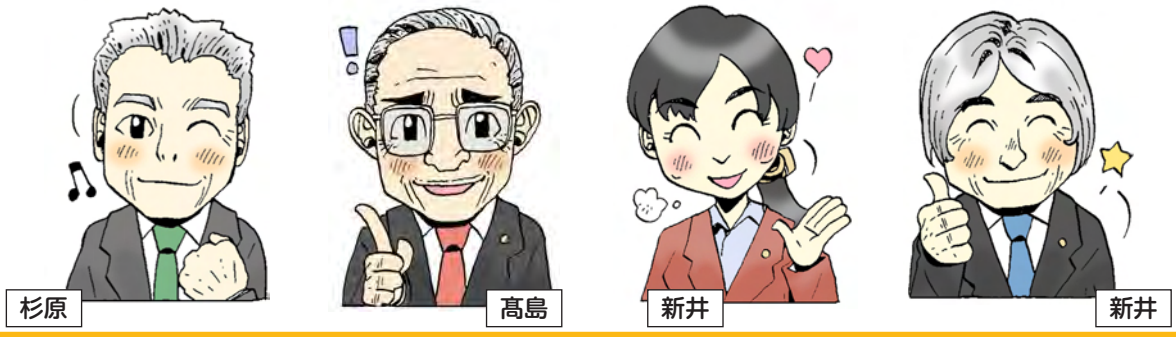


【マネジメントのしくみづくり（PDCAの展開）】導入による４つの効果

- コストの削減
- 作業時間の効率化
- 適材適所で組織の成果アップ
- 情報管理の信頼性強化

社内での経営メリットもこんなにあるなんて!

私たち製品含有化学物質管理システム構築のエキスパートが、親身になってサポート致します!!



～…では、製品含有化学物質管理システム構築の「最重要５ステップ」とは!?

イラスト／©松田　純
©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

「製品含有化学物質管理システム」構築の「最重要５ステップ」とは？

～ＰＤＣＡサイクルをつくることが鍵～

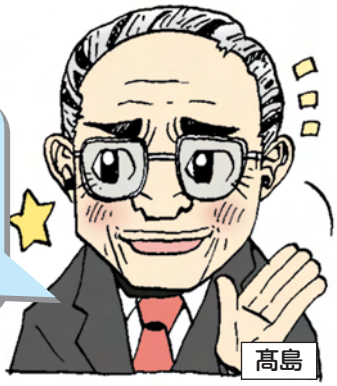
ひげ社長

ウチの会社は従業員が30名で、部署が4つ。
パートさんが半数だから管理教育が課題だよ。
化学物質管理のことは、部の担当者も何となく
知ってるぐらいなんだ…。

新井

なるほど･･･現状では
製品含有化学物質管理の
体制やしくみが充分では
ないということですね。

それなら、御社に合った
体制としくみを
つくるお手伝いを
しましょう。



髙島

製品含有化学物質管理システム構築の最重要５ステップ

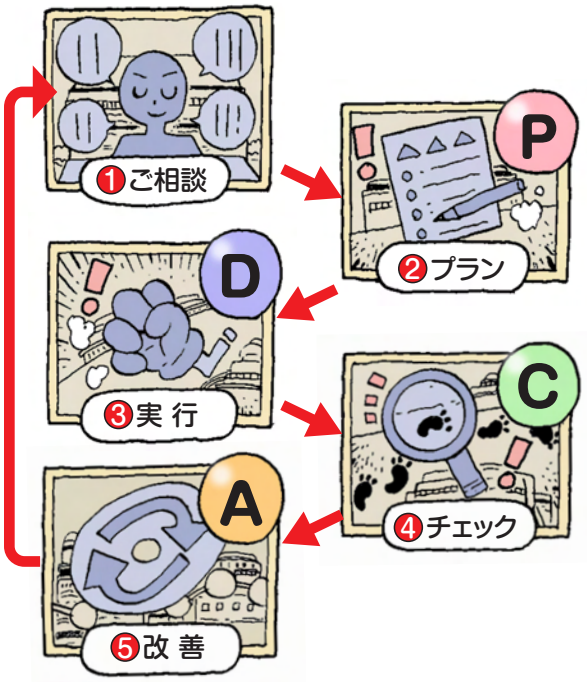
❶ ご相談
あなたの会社の規模や管理体制をお伝え下さい。

❷ 製品含有化学物質管理システム構築の「プラン」をご提案（P）
プランでは、方針・目標・計画の３つを明確にします。
さらに「REACH規則」が要求している含有化学物質の調査方法
や調査結果の妥当性の検証に関して丁寧に説明します。

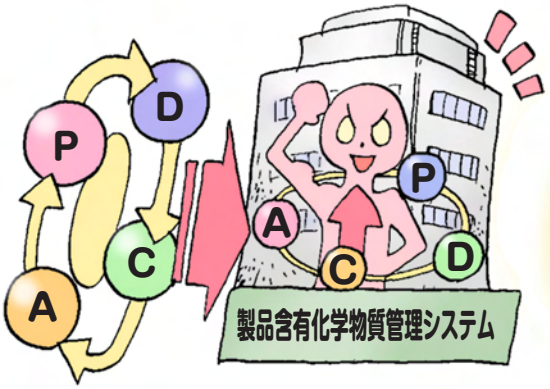
❸ 社内で「プラン」を実行する（D）
プランに、実際に取り組みます。

❹ 工程をチェックして、結果を測定する（C）
実行によって、どんな結果が出ているかを測定します。

❺ サイクルを見直し、改善する（A）
全体を検証して、上手くいってないものを改善します。



⇒この、ＰＤＣＡサイクルを繰り返すことにより、
製品化学物質管理システムの継続的改善ができます。



ひげ社長

6ヶ月後…

取り組んでホントに良かった!!
取引先の信頼性もアップしたし、
いろんな面で企業体質も強くなったよ!!
いやー!!　先の見える経営ができる
って、ほんとに素晴らしいね!!

イラスト / ◎松田　純

©2010 株式会社環境化学研究所 All Rights Reserved.

あなたの会社の製品含有化学物質管理のしくみづくりを丁寧にサポートします!!

（株）環境化学研究所
Institute of Environmental Chemistry

【企業理念】

価値観や立場の違いを超えた人々の協力を促し、自然との共生を目指して、次世代にきれいな地球を引き継ぐ。

【ミッション】

製品含有化学物質管理の普及を通じて、日本の製造業の発展に寄与する。

【スタッフ紹介】

○新井曜子

代表取締役　エコステージ評価員(0530)

[略歴]
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所グローバル人材開発課マネジャー。
2011年3月多摩大学大学院博士課程前期修了。論文「グローバル競争力強化戦略としてのREACH規則対応推進の方法ー中小企業における製品含有化学物質管理普及に向けてー」は2010年度多摩大学大学院経営情報学研究科優秀論文賞受賞。
[趣味] 3S (家の中の片づけ)　[モットー] 多様な人々とともに歩む

○髙島紘一

化学物質管理上級コンサルタント, 教育プログラム開発シニアアドバイザー
化学物質・化学物質管理・化学物質管理システム構築のエキスパート。

[略歴]
京都大学工学研究科高分子化学専攻　博士課程終了後、富士ゼロックス株式会社に入社。現像剤の研究開発、化学物質管理体制構築に携わる。エコステージ協会化学物質管理システムを開発。
現在（社）電子情報技術産業協会(JEITA)電気・電子機器、システムの環境国際規格(IEC TC111)国内委員。
[趣味] 家庭菜園, コントラクトブリッジ　[モットー] 法律と真摯に付き合う

○剣持光雄

シニアコンサルタント　ISO環境審査員補（B3181）　エコステージ主任評価員(0257)
製品ライフサイクルにおける環境・品質管理のエキスパート

[略歴]
富士ゼロックス株式会社　技術開発マネージャー、品質管理・品質保証マネジャー。
現在のネットワーク、クライアントサーバシステムの基本となったXerox PARC開発のStar Systemハードウエア担当として、日本市場向け開発、生産、市場サポートを実施。
その経験をもとに現在ISO14001, ISO9001, エコステージ, 化学物質管理構築コンサルティング活動中。
[趣味]輪行(サイクリング), 家庭菜園　[モットー]お客様のお役に立つこと

○新井恒隆

取締役　シニアコンサルタント　ISO環境審査員補(B11168)　エコステージ主任評価員(0232)
化学物質管理システム構築のエキスパート
富士ゼロックス株式会社営業マネジャー。
同社エコステージ推進室マネジャー。エコステージ協会化学物質管理システムを開発。
[趣味] ベランダ園芸　[モットー]親身になってお付き合いします！

（株）環境化学研究所
〒206-0041 東京都多摩市愛宕4-28-1-204
Tel & Fax: 042-401-9603　　**Email: info@kankyokagakuken.com**

© 2010 株式会社環境化学研究所　All Rights Reserved.